

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19104011	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	NECESSArray 計画・中国大陸からみる地球内部ダイナミクス	研究代表者 (所属・職)	川勝 均 (東京大学・地震研究所・教授)

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、国際協力により中国東北部に大規模かつ広帯域の地震観測網を構築し、大陸や地球深部の構造・ダイナミクスを明らかにしようという世界に貢献できるものである。</p> <p>中国における巨大地震の発生など不測の事態による計画の変更や調整はあるものの、現時点でほぼ当初の計画どおり、120点の地震観測網を整備できている。そして観測網で得られた記録の予備的な解析から、大陸内部という低ノイズの環境下で、極めて良質のデータが得られていることを確かめている。観測期間が計画より短縮されることになるが、解析の体制も確かであり、期待どおりの成果が見込まれる。</p>	

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>当初計画どおり、中国東北部に120点の地震観測網を整備し、観測網を2011年8月までの2年間維持して多くの観測データを獲得した。得られたデータは大陸内部という低ノイズの環境下で極めて良質である。観測データの解析から、内核“西半球”に相当する領域で地震波の速度・減衰構造などが明らかになりつつあり、今後内核生成のプロセスの解明に繋がることが期待される。</p> <p>今後とも、得られた観測データの解析を進め、論文発表によって研究成果の社会的な周知を期待する。</p>